

## 青谿書院の活動

池田 桑雄

昭和五十二年九月二十四日は池田草庵先生没後百年目に当たることにより、その一か後の十月二十三日に記念式典が盛大に行われたが、最初にそれに至るまでの祭典について述べておきたい。

(1) 「三年祭」 草庵先生没後三年目に当たる明治13年、門弟子が集まり青谿書院の記の文を石に刻むことを決め、書は長三洲に依頼し、「青谿書院記」の碑ができあがった。

(2) 「十年祭」 明治21年、青谿書院保存会が結成される。会長に北垣国道、副会長に原六郎が就任。

(3) 「三十年祭」 明治40年9月、草庵先生の著作を『青谿書院全集』第一編、第二編として刊行した。(明治42年7月20日発行) なお保存会は明治43年に財団法人となった。ついで大正2年9月には『草庵

文集拾遺』を刊行。

(4) 「贈位報告祭」 大正4年11月10日、大正天皇即位大典の日、従四位を贈られた。それを記念して、贈位報告祭が大正5年4月23日に挙行された。

(5) 「五十年祭」 昭和3年8月23日挙行された。門人代表は久保田譲(元文部大臣)、山内雄太郎姫路高等学校校長の講演。

五十年祭記念出版物として、次のものが刊行された。

『青谿書院概覧』、『松青沙白詩稿』、『但馬聖人』、『五十年祭祭典報告、詩歌集』。このうち『但馬聖人』は豊田小八郎著、池田桑次郎の修補による明治40年8月9日、青谿書院保存会発行のものの再版である。

青谿書院記 從五位長<sup>ヒカル</sup>茅自筆 (維新の三筆 長三洲書)



第6回 八橋喜代松「『肄業余稿』について」  
第7回 西村英一「草庵先生の日記について」

(8) 「池田草庵先生に学ぶ会」

池田草庵先生百年祭を機に、「先輩が積みあげてこられた青谿書院の研究・業績を分かりやすく会員にお知らせするとともに、先賢の徳行をあわせ学ぶ中で、会員相互のつながりを深める」という趣旨のもとに会を結成。会報『青谿書院』を刊行、会員に配布。

創刊号 昭和53年11月24日刊。これを研究会において配布した。

第2号 昭和54年5月24日刊行。以後秋と春の年2回、定期的に刊行。

昭和61年5月25日付けの第16号まで刊行されたが、その後は、第17号、昭和61年5月25日、第18号は平成2年5月（日付なし）、第19号、平成5年5月（日付なし）で途絶えている状況にある。

(9) 池田草庵関係書の出版について。

『池田草庵全集』第二編 池田草庵日記

西村英一編著『山窓功課』（上中下）昭和54年8

月20日、青谿書院保存会刊行。上巻、影印（1040頁）。中下巻、解読及び参考資料、（1421頁、221頁）。

『池田紫星選集』池田糸郎著、池田紫星編纂委員会編。昭和54年10月25日、青谿書院保存会発行。付録に「池田草庵」（昭和28年刊）及び「池田草庵年譜」「池田草庵門人名簿」を収める。

(10) 池田草庵関係資料、八鹿町文化財に指定される。昭和55年11月11日。

(11) 『池田草庵全集』第一編 財団法人青谿書院保存会編『池田草庵先生著作集』全一卷 昭和56年9月24日発行。

明治42年刊行の『青谿書院全集』第一編、二編、遺編に「池田草庵先生著作集解説」（岡田武彦）、付録一「池田家系図」、二「池田草庵年譜略」、三「池田草庵門人録」を付したものの。（1157頁、161頁）

なお本全集には別冊として『草庵先生の著作』（池田草庵全集編集委員会）が付されている。

本著作集出版を記念して、記念式と講演会を56年

9月22日、八鹿町民会館において行った。

〔講演題目〕

小谷恵造「草庵先生との出会い」

井上順理「縦と楠と」

岡田武彦「草庵先生の人間観」

(12)

青谿書院顕彰事業について

青谿書院資料館（収蔵庫）建設

昭和57年12月17日起工、58年4月28日竣工。9月

24日、草庵先生の命日に開館。

青谿書院資料館開館記念出版として、つぎの二書を刊行。

『但馬聖人 付その後の青谿書院』青谿書院顕彰

募金委員会・青谿書院保存会昭和58年9月24日発行。

本書は豊田小八郎著『但馬聖人』に「池田草庵先生百年祭記念事業の趣意書、報告書と機関誌『青谿書院』創刊号から9号まで、「青谿書院顕彰募金趣意書」を収めたもの。

『池田草庵先生遺墨集 師友門人関係資料』

別冊「訳注と考察」

監修 岡田武彦、池田草庵遺墨編集委員会編。昭

和60年5月刊。

別冊には、「池田草庵先生遺墨訳注」（小谷恵造）、

「草庵先生の和歌を探る」（西墻澄雄）、「草庵先生の遺墨について」（細川翠楠）、「落款探搜」（弘中康熙）を収める。

池田草庵先生顕彰「西野象山書展」を八鹿公民館大会議室において開催。昭和60年6月6日より10日まで。

(13)

兵庫県文化財指定について。すでに昭和45年に書院の建物、屋敷が県の史跡として指定されているが、昭和58年には、先生の自筆稿本八十冊と手写本三十七冊、その他十四冊の計百三十一冊が県の歴史資料として重要文化財の指定を受けた。その後昭和61年には軸物類五十七点、巻物類八点、額類十一點、遺品類三十点、落款三十三点、書簡千十四点の合計一千百五十三点が、県の文化財に指定された。

(14) 「但馬・理想の都の祭典」（平成6年4月9日－7年3月18日）

会場、但馬全域（1市18町）

①大但馬展——但馬の風土と先人たち——開催地、

豊岡市。

但馬の先人の活躍から、但馬の良さの再確認と明日の但馬作りの方向を見いだすというイベントで、その先人の一人として池田草庵も取り上げられている。この一環として「青谿書院ルネッサンス」が行われた。

②「青谿書院ルネッサンス／プレイベント」

但馬聖人 池田草庵先生ご生誕一八〇年並びに開塾一五〇年記念大祭

平成6年7月23日 於青谿書院

〔記念講演会〕

山本 稔 (浜坂町先人記念館長)「草庵先生とその門弟たち」

吉田 寛 (神戸商科大学名誉教授・流通科学大学教授)「青谿書院ツルネッサンスの意味するところ」

③「青谿書院ルネッサンス―池田草庵研究フォーラム」

平成7年3月11日 宿南小学校体育館

〔基調講演〕

木南卓一 (帝塚山大学教授)「池田草庵先生に学

ぶこと」

〔シンポジウム〕

パネリスト

白川 武 (香川県多度津文化財保存会理事長)

「草庵の学友・林良斎」

梅谷卓司 (作家・相馬九方研究家)「草庵の師・

相馬九方」

宿南 保 (郷土史家)「草庵の学問と門弟」

コーディネーター

和田隆男 (但馬学塾長)

④「池田草庵展―遺墨展」 3月11日・12日 宿南

小学校体育館

このイベントのまとめとして、当日の講演やシンポジウムの発言を、テープより活字に起こし、記録したものが、『青谿書院ルネッサンス―池田草庵研究フォーラム』(八鹿町教育委員会編集、平成7年3月30日発行。兵庫県八鹿町「ふるさとシリーズ」第7集)として刊行された。

本書には、第3章に、イベント外の山本稔(浜坂町先人記念館長)の「池田草庵と養父郡の

門弟たち」と塩田道雄（多度津町文化財保護協会長）の「林良斎と池田草庵の交わり」が収められている。前者は第1回八鹿町ふるさと歴史講演会で話されたもの。

(15) 青谿書院開塾百五十周年記念出版

弘化四年六月八日、青谿書院が開塾して百五十一年目、つまり百五十周年を記念して2冊の書を刊行した。

(1) 『肄業餘稿』『但馬聖人』『池田草庵』

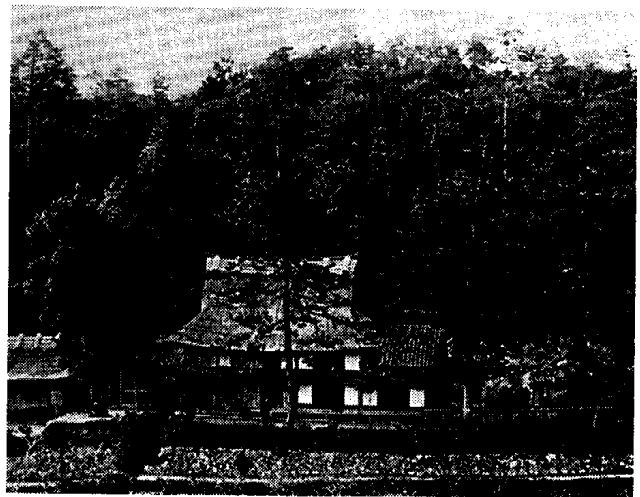
平成十年六月八日、(財)青谿書院保存会。

『肄業餘稿』は百年祭の記念出版として刊行された岡田武彦・藪敏也訳注のもの。『但馬聖人』は、豊田小八郎著、池田糸次郎修補。明治40年初版、昭和3年修補第三版をもとにし、『池田草庵』は池田糸郎（号、紫星）の著。昭和28年刊、昭和54年刊の『池田紫星選集』所収のものによっている。

(2) 『青谿書院―明治・大正・昭和・平成―』

平成十年六月八日、(財)青谿書院保存会。

本書は、池田草庵先生三〇年祭、同五〇年祭、百



大正初期の青谿書院全景  
(兵庫県養父郡八鹿町宿南)

年祭関係文書、会報「青谿書院」創刊号から19号、開塾一五〇年記念祭、青谿書院ルネッサンス等の記録集で、青谿書院の歴史でもある。

「草庵先生に学ぶ会」は平成6年10月に再開第一回を開き、平成9年

10月までに16回を数えている。現在の会員は二十五名ほどで、夜、青谿書院に集まって勉強会をしているが、大但馬展・青谿書院ルネッサンスの盛り上がりは、もはや過去のものという感じで、草庵先生に学び、その思想を受け継いで行くには、今後どのような活動が求められるか模索の中にあるのが現状である。

(青谿書院保存会理事長)